



## 戦後日本の三つの経験 (9月のごあいさつ)

平成 27 年 9 月 1 日 (火)

今年は、空梅雨だったせいか台風が多発しています。この季節、大きな台風には来てもらいたくない気がします。

昭和 43 年 (1968 年)、明治 100 年目にあたるこの年、日本の GNP (国民総生産) は、アメリカに次ぐ世界第 2 位となった。戦後 20 数年を経ずして欧米先進国へのキャッチアップと、**経済大国**としての地位を確立した画期的出来事であった。

戦後の日本経済は、**二つの成功と一つの失敗**であったとドラッカーは言う。

**最初の成功**は、農村部の非生産的な人口という戦後日本の最大の問題を、**何もしないこと**で解決したことである。戦後の日本の農業人口は 60% 占めており、その生産性はおそろべき低さだった。これをいかなる混乱をもたらしことなく、多くの農業人口を都市に吸収した。**現在の農業人口は 3% を切っている。**

**もう一つの成功**も、**ほぼ何もしなかったこと**によるものであった。それは小売業の問題であった。60 年代の初めにおいても、家族経営の零細商店からなる世界的に時代遅れの**前世紀的な流通システム**をかかえていた。この問題が 2000 年代には社会的にも経済的にもほぼ解消し、世界で最も**効率的な流通システム**とも言われるようになった。

ところが、**第三の経験は完全なる失敗**であった。

先の二つの成功、つまり、何もしない先送りの知恵を忘れた結果であった。それは、1985 年の**プラザ合意**による円高に対して、景気回復のために超金融緩和政策を採った。**バブル**ははじけ、金融危機に続く 20 年にも及ぶ**デフレ経済**にみまわれることとなった。

現在、日本は**高齢化と少子化**という問題に直面しつつある。50 年後には人口は 3 分の 1 程度は減少するとも言われているが、これは、戦後の三つの経験よりも大きな問題である。

社会構造の変化に対応した**一体改革**とは、税と「歳出」の一体改革であり、**社会保障費の改革**が重点であることを銘記すべきである。**最大の課題は組織と給付の巨大化**であり、組織や給付は大きくなるほどコスト負担が大きくなる。

生物や組織は、表面積が長さの二乗に比例し、体積は長さの三乗に比例すると言われている。長さが 10 倍になれば、表面積は 100 倍となり、体積は 1,000 倍となる。樹木が天まで伸びないのもこの法則のためである。